

第 4 3 8 回鯖江市議会定例会

陳情文書表

陳情第 1 号

(令和 5 年 2 月 24 日)

受付年月日	件 名	陳 情 者	付託委員会
令和 5 年 2 月 3 日	保育士配置基準改善を求める意見書 の提出を求める陳情書	福井県労働組合総連合 議長 鈴木 孝典	教育民生

(要 旨)

コロナ禍でも保育施設では、子どもの命と健康を守り、発達を保障するために懸命に保育を続けています。しかし、長期化するコロナ禍であらためて保育現場の人手不足が浮き彫りになりました。

長期化するコロナ禍のもと、保育に携わる職員は収束する兆しが見えない中で、いのちを守る・預かる職場として緊張感の高い状態で働いています。一方で、職場でクラスターを出さないことはもちろん、家族間やプライベートでも感染しないよう 24 時間緊張状態で生活しているため、精神的にも負担が増しています。保育所での痛ましい事故が世間を賑わせていますが、原因が保育現場の人手不足にあると指摘する専門家も少なくありません。その人手不足の原因に 70 年以上変化のない保育士配置基準があります。

4、5 歳児では 70 年以上、1、2 歳児では 50 年以上変化のない、日本の保育士配置基準の上での保育は、子どもたちにとって「適切な保育環境」とは言えません。保育士配置基準の改善は喫緊の課題です。

小学校では、全学年での少人数学級化（35 人学級）が決まり、順次実施がされていきます。例えば、小 1 の学年に 36 人の児童が入学をする場合、18 人の教室を 2 つ作ることとなります。現行の保育士配置基準では、幼い乳幼児が小学生よりも過密となる逆転現象が起きてしまいます。

コロナ禍で、保育環境の改善を求める保護者、職員、地域住民の声は大きくなっており、いまこそ国が責任をもって改善をすすめることが求められています。

つきましては貴議会より、国に対して「保育士配置基準改善を求める意見書」を提出していただくよう陳情いたします。